

## 2017年度 センター試験 地理B（本試験） ワンポイント解説

第1問	問1	海底の断面をテーマとした問題は珍しいが、海溝や海嶺、大陸棚の分布がわかっているならば解答することは容易な問題である。
	問2	高緯度を流れる暖流である北大西洋海流とアラスカ海流を知っていれば解答できる問題。
	問3	PQR はいずれも夏が乾季となっていて、S のみ年間を通じて降水が見られている。ア～エのうち、大陸東岸にあるエは気温の年較差が大きく、降水も年間を通じて見られることから判断できる。
	問4	③の「ク」は形から判断して「ケ」と同じく干潟から形成されたものと判断できるため誤りである。
	問5	被災者数で圧倒的割合を占める X は、人口が多く、低地帯に集中するアジアであると判断できる。被害額で目立つ Y は先進国が含まれる南北アメリカであると判断できる。
第2問	問6	「セ」は土石流・火砕流共に被害を受ける可能性が高いため誤り。
	問1	生鮮野菜については、空輸による輸入量が増加しているため誤り。
	問2	零細経営農家の多いアジア・アフリカを①②と考え、その中で工業化の進むアジアの方が GDP に占める農林水産業の比率が低いと判断する。
	問3	インドの牛糞などの利用もバイオマスエネルギーとなっているため誤り。
	問4	資源の少ない日本が①、石油生産のあるイギリスを③、石炭の大生産国であるオーストラリアを④と判断する。
第3問	問5	中国・オーストラリアの2国に注目してみるとわかりやすい。両国ともに含まれる「イ」が生産量とわかる。人口の少ないオーストラリアは消費量が少なく輸出量が多くなるため、日本も含まれる「ア」が消費量、「ウ」が輸出量であると判断できる。
	問6	紛らわしいところのない問題であるため、しっかりと解答したい問題。
	問1	アメリカの住宅地は都心ではなく郊外に形成されるため誤り。
	問2	①は放射・環状路型ではなく、碁盤目状であるため誤り。②は江戸時代の日本は中央集権で自由都市の形成は無かったので誤り。③タウンシップ制度で見られた村落は集村ではなく散村であるため誤り。
	問3	オーストラリアは、東部沿岸部の都市に人口が偏在しているため、④であると判断できる。
第4問	問4	1985年～1990年はバブル経済期で都心の地価が高騰していたため、郊外で人口増加が見られた。「カ」「キ」の区別は、近年の人口減少と都心回帰の傾向をより表している「キ」が2005年～2010年のものであると判断する。
	問5	三大都市を含む東京・愛知・大阪では老人ホーム定員数は低位となっているため、③が誤り。
	問1	「ア」は黄砂の源である黄土高原のこと。「イ」は桂林に代表されるカルスト地形地域である。
	問2	冬季の気温が氷点下になっている①④を除外。②③は夏季の気温に差があることに注目し、高原に位置する M を③と判断する。
	問3	温暖湿潤の南部に集中する「カ」は茶であるとわかる。人口の多い大都市周辺で生産される野菜は沿岸部の「ク」であると判断できる。
第5問	問4	④は貿易風ではなく季節風・偏西風が正しい。
	問5	①のシャンハイは社会保障格差の大きさが問題化しているため誤り。②は中国の他都市と比べて普及率は高いため誤り。③は中国最大の油田は黒竜江省のターチン油田であるため誤り。
	問6	ウイグル語やチベット語など、自治区においては独自の言語の使用が認められているため誤り。
	問1	標高については、ドイツは安定陸塊が多く起伏が小さいが、スペインは造山帯が多く起伏が大きいため、「イ」がドイツであると判断する。降水量については、地中海性気候で夏季の降水が少ないスペインは年間降水量も少ないと判断し、A がドイツであると判断する。
	問2	ドイツ国内に存在しない■はオリーブ、スペイン国内に存在しない▽はライ麦であるとわかる。ドイツ南部に分布する▲がブドウである。
問3	都市数については、ライン川流域で都市が集中する北西部が高い数値となっている「カ」をドイツと判断する。日系現地法人数については、マドリード、バルセロナのみに集中するスペインを D と判断し、ドイツは E とわかる。ドイツは連邦制国家でミュンヘンやハンブルク、フランクフルトなどに分布している。	

第6問	問4	すべての国と貿易額が小さい「セ」はポルトガルであると判断する。そのポルトガルと比較的貿易額が高い「ス」は隣国のスペインであるとわかる。
	問5	文章に「歴史的経緯や文化の共通性」とあるように、スペインへの移民はラテンアメリカからのものが多いため誤り。
	問1	①は南部に213m地点が見られるため誤り。
	問2	①②は道路の寸断も水田もみられないため誤り。③は1926年の地形図では渡船の航路(破線)が見られるが、2006年の地形図では外海に向かっており(博多行き)渡船航路がなくなったことが分かる。④の梅ノ木ダムは発電所の地図記号および送電線が見られないため、水力発電は行われていない。
	問3	Aは平坦な水田地帯が広がることから「ア」と判断。Cは写真の中央奥に道路が伸びていることから「ウ」と判断できる。
	問4	樹林は北側に位置しているため、冬季の季節風を防ぐものであるとわかる。
	問5	壱岐島周辺は暖流の対馬海流が流れている。
問6	離島や郊外のみで上位となっているFは複式学級であると判断する。都市部に上位が集中してみられるGは1000人当たり医師数、都市部と離島で上位となっているEは居住する市町内で買い物をする割合であると判断できる。	
問7	アメダスでは被災家屋や被災者数を知ることはできないため誤り。	